

池原義郎の設計思想とその鍵概念について
—建築と人間と自然とのコレスポンドを求めて—

On Yoshiro Ikehara's design philosophy and key concept.

In search of a correspondence between architecture, human beings and nature

○伊勢萌乃¹, 田所辰之助²
*Moeno Ise¹, Shinnosuke Tadokoro²

Yoshiro Ikehara (1928-2017) is an architect who comprehensively designs landscape and sensibility under the theme of "human beings". Designing from the 1970s landscape was a pioneer. From modernism and postmodernism at that time, it can be said that it was an architect who worked while maintaining his "distance". This survey method focuses on discourses published in magazines and books from 1967 to 2017, when Ikehara was active. The purpose of the research is to clarify and characterize the features of the work.

1. 序

1-1. 研究背景

池原義郎（1928-2017）は、「人間の生」を設計テーマとし、ランドスケープと感性から総合的に設計する建築家である。このランドスケープから設計することは、1970年代において先駆的なものであり、人間の感性にまで及ぶ建築をつくろうと試みた姿勢は、その建築自体や周辺全体の新たな性格を特徴づける際に、有効な手段であるといえる。

1-2. 目的と研究方法

池原の建築作品は、近年まで活動していたことから、まだ彼の作品を中心に扱った研究自体がほぼないため、生前当時の位置づけが十分なされているとは言い難い。そこで本研究では、池原義郎が活躍した1967年から2017年にかけて『新建築』等の雑誌や作品集に掲載されている言説に注目して、思想概念を明らかにし、位置づけすることを目的に分析を行う。

2. 池原義郎の言説にみる思想の概念構造の考察

ここでは、池原義郎の1969年から2017年に至るまでの間に発表された全著作を対象に、建築思想に関する言説の抽出を行った。抽出した言説から計100のキーワードを抜き出し、kj法によって分類、整理することで建築思想の概念を構造化した。（表1）

池原義郎の建築思想は、〈理想の建築像〉〈問題意識〉〈空間の効果〉〈空間構成要素〉〈発想の源〉の5つの基礎概念からなる。

2-1. 理想の建築像

〈理想の建築像〉では、池原が目指した建築像についての言説を抽出した。ここで軸となるのが「コレスポンド」である。これは、通信や文通という意味で、池原は2つ以上のもの同士が直接的な応答をしている状態、生きるという運動を説明する際にこの言葉を用いていた。

2-2. 問題意識

〈問題意識〉では、池原が当時意識していた問題についての言説を抽出した。「時代に翻弄されない意志」とは、当時の建築情勢からは独自の「キョリ」を保って活動した池原の意志が表されている。

2-3. 空間の効果

〈空間の効果〉では、池原が求めた空間効果についての言説を抽出した。ここで軸となるのが「運動」である。これは「雰囲気」という「環境(アトモスフィア)」の概念から構成されているキーワードと「個(孤独)」「奥」という「生命」の概念から構成されているキーワードで構成している。「運動」とは、ルドルフ・シュタイナーの「私たちの回りにはフォルムの精神が存在しているがゆえに、私たちの回りにフォルムとなって注がれる精神と一つになるために、またフォルムの精神の背後には運動の精神が存在しているがゆえに、運動となって現われる精神と一つになるために、私たちは敬慕の念を抱いて精神の中へと入っていく。これが新しい建築学の思想である。」「建築はフォルムと精神そのものとの内的な交わりを表現していなければならない。」という考えに基づいている。

2-4. 空間構成要素

〈空間構成要素〉では、池原の空間構成に関する言説の抽出を行った。ここで軸となるのが「形」である。これは、見る・触るなどして物理的に体感・理解できるものである。一方「ディテール」は、視覚の中で直接に認知されない、形を構成する分子や原子のことを指し、この段階でランドスケープ(外部環境)を取り入れていることは、池原の特徴であるといえる。

2-5. 発想の源

「発想の源」では、池原の経験談に関する言説の抽出を行い、建築思想の根源となるものを探った。ここで軸となるのが「自律と共生(ともいき)」である。自律とは、「形」に意志が伴っているものを指し、「共生」とは、それら「形」同士が直接的な応答をしている状況のことである。

3. 結

本章の第2章で、池原の設計理念の根源には、「自律と共生(ともいき)」という概念があることが分かった。また、「形」については、ランドスケープに基づいて決定されていることが明らかとなった。このランドスケープが大きく注目を浴びるようになったのは、1980年代以降のことであるが、池原は1969年の中山邸からこれらに注目して設計を行っており、ランドスケープにおいて先駆的な建築家と言える。さらに、「ディテール」の要素としてこれらを用いていることは、彼の特徴だといえる。

1: 日大理工・院(前)・建築、CST., Nihon-U.Architecture

